

芙美子が愛した家と庭

林芙美子記念館

231031



花のいのちは
みじかくて
苦しきことのみ
多かりき
林芙美子



新宿区立
林芙美子記念館
東京都新宿区中井2-20-1
指定管理者：公益財団法人 新宿未来創造財団

記念館のご案内



泰と食事



下落合で夫・緑敏と

この建物は「放浪記」「浮雲」などの代表作で知られる作家・林芙美子が、昭和16(1941)年8月から昭和26(1951)年6月28日にその生涯を閉じるまで住んでいた家です。

大正11(1922)年に上京して以来、多くの苦労をしてきた芙美子は、昭和14(1939)年にこの土地を購入し、新居の建設をはじめました。

芙美子は著作『家をつくるにあたって』に「私の生涯で家を作るなどとは考へてもみなかつたのだけれども、(中略)生涯を住む家となれば、何よりも、愛らしい美しい家をつくりたいと思った。」と書いています。

客間よりも、茶の間と風呂と厠と台所に工夫とぜいを凝らしたこの家は、人に見せるための家ではなく、住み手の暮らしと安らぎを第一に考えた家でした。芙美子の終の棲家となったこの家には、創作活動と同様に生活を大切にしたい芙美子の思いを随所に見ることができます。

展示室のご案内

※画家である夫・緑敏のために作られたアトリエと、緑敏が芙美子の遺品を管理するために建てた石蔵では、年4回展示替えをしています。

利用のご案内

- 開館時間 午前10時から午後4時30分まで(ただし入館は午後4時まで)
 - 休館日 月曜日(月曜日が休日にあたるときは、その翌日) 年末・年始(12月29日～1月3日)
 - 入館料 一般150円、小・中学生50円 団体20人以上の場合は、一般80円、小・中学生30円
障がい者手帳等をお持ちの方は観覧料が免除されます。
小・中学生および20人以上の中学生以下の者を引率する方は、下記の期日について観覧料が免除されます。
1 土曜日・日曜日 2 国民の祝日(振替休日を含む)・都民の日(10月1日)
3 新宿区立小・中学校の夏季・冬季・春季休業期
 - ボランティアによる館内ガイドを実施しています。
詳しい日程や団体の解説希望等、お気軽にお問合せください。
- [注意] ●敷地内は禁煙・飲食禁止です。
●危険物、動物の持ち込みはご遠慮ください。

交通のご案内

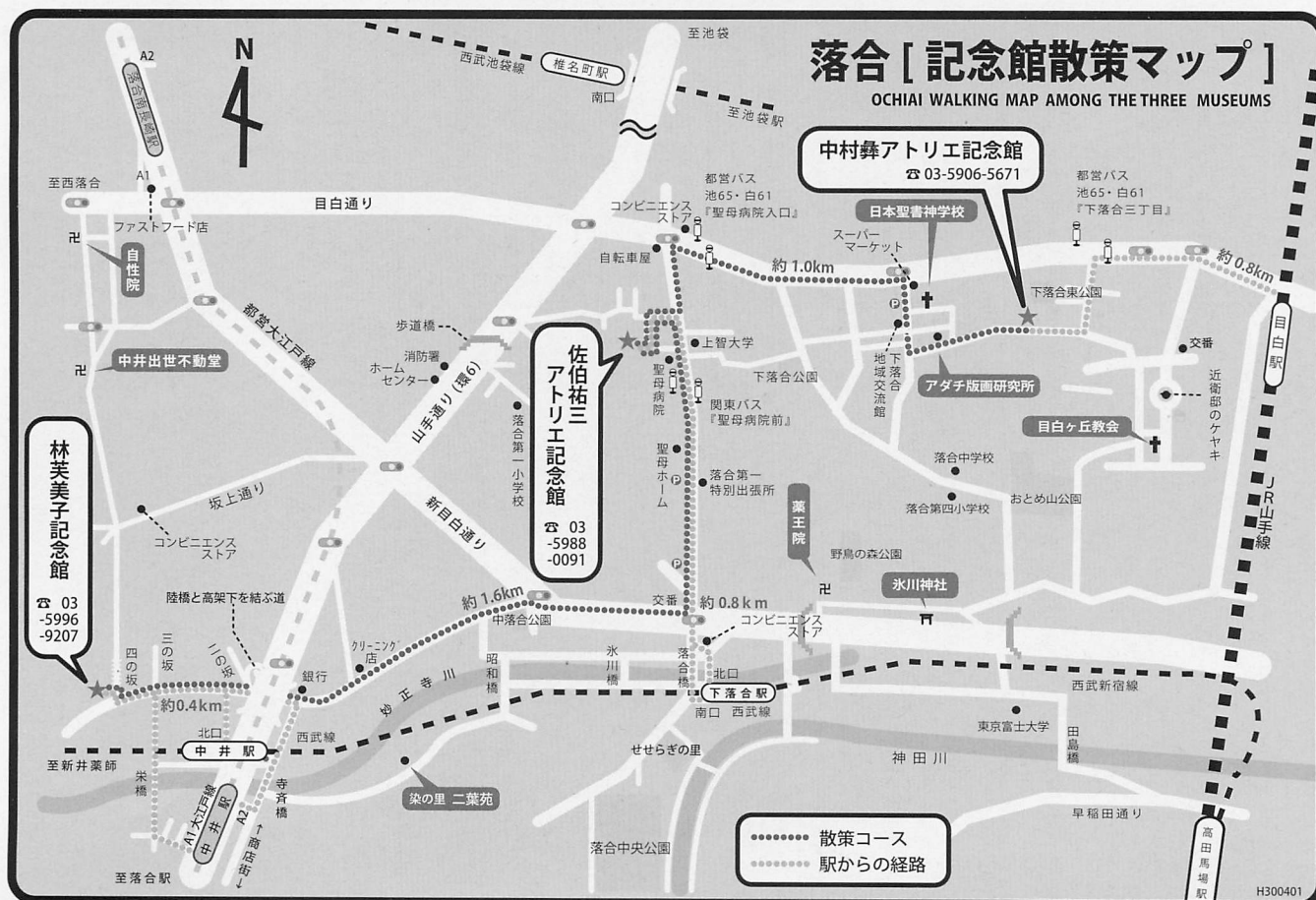
- 都営地下鉄大江戸線・西武新宿線「中井」より徒歩7分
※西武線をご利用の方は、駅改札を出たら踏切を渡り、銀行のある交差点を左折してください。
- 西武バス停「中井駅」より徒歩5分



母キクと庭を眺める



アトリエ(展示室)





新宿区立

佐伯祐三アトリエ 記念館

開館時間

5月～9月

午前10時から午後4時30分

10月～4月

午前10時から午後4時

入館料
無料

Saeki Yuzo 231031

ATELIER MUSEUM

休館日 毎週月曜日(祝休日にあたるときはその翌平日) 年末年始(12月29日～1月3日)
交通 西武新宿線「下落合駅」下車徒歩10分(車での来館は出来ません。)

新宿区立佐伯祐三アトリエ記念館

東京都新宿区中落合2-4-21 <https://www.regasu-shinjuku.or.jp/saeki/>

TEL.03-5988-0091

FAX.03-5988-0092

指定管理者：公益財団法人 新宿未来創造財団

佐伯祐三 アトリエ記念館



佐伯祐三
(1898～1928)

佐伯祐三は大正10年(1921)、妻・米子(よねこ)との結婚を機に、下落合(現・中落合2丁目4番21号)にアトリエ付き住宅を新築しました。同時代には洋画家中村彝(つね)

をはじめとする多くの画家たちが落合にアトリエを構え、活動していました。
この地は佐伯がアトリエを構え、創作活動を行った日本で唯一の場所として、当時のままの敷地に大正期のアトリエを記念館として再現しています。
記念館内では、映像やパネルで佐伯祐三の生涯や画業をしのぶことができます。また、管理棟のミニギャラリーでは年4回のパネル展示を行っています。



新宿区立
佐伯祐三アトリエ記念館

開館時間 | 5月～9月 午前10時から午後4時30分
10月～4月 午前10時から午後4時

入館料 | 無料

休館日 | 毎週月曜日(祝休日にあたるときはその翌平日)
年末年始(12月29日～1月3日)

交通 | [電車] 西武新宿線下落合駅下車 徒歩10分
JR目白駅下車 徒歩20分
[バス] 都営バス(白61・池65)練馬車庫前行
目白駅→聖母病院入口下車 徒歩5分
関東バス(宿02)丸山営業所行
新宿駅西口→聖母病院前下車 徒歩2分
※車でのお来館はできません。

落合記念館散策マップ

OCHIAI WALKING MAP AMONG THE THREE MUSEUMS



新宿区立
つね
中村彝アトリエ記念館
Nakamura Tsune ATELIER MUSEUM



入館料無料

231031

開館時間 | 午前10時 ▷ 午後4時30分
休 館 | 月曜日(祝休日にあたる時はその翌平日)
年末年始(12月29日~1月3日)

交通
のご案内

電車: JR山手線目白駅下車徒歩10分
バス: 都営バス(池65・白61)下落合三丁目下車 徒歩5分
※車での来館はできません。

新宿区立

中村彝アトリエ記念館

東京都新宿区下落合3-5-7
TEL: 03-5906-5671
FAX: 03-5906-5672
<https://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/tsune/>
指定管理者: 公益財団法人新宿未来創造財団

新宿区立

中村彝

アトリエ記念館



なかむら つね
中村彝
(1887~1924)

中村彝は、明治20年（1887）、現在の茨城県水戸市金町に、旧水戸藩士中村順正と妻よしの三男として生まれました。間もなく父を亡くし、11歳のときに母を亡くすと、陸軍軍人の長兄を頼って上京、牛込や大久保に住み、愛日尋常高等小学校（現愛日小学校）を卒業、早稲田中学に入学します。その後、長兄・次兄と同じく陸軍軍人をめざし、名古屋陸軍地方幼年学校に進みますが、肺結核と診断されたために軍人の道を断念、画家を志すようになります。白馬会や太平洋画会の研究所で学び、明治43年（1910）、第4回文部省美術展覧会（文展）に出品した『海辺の村（白壁の家）』で三等賞を、翌年の第5回文展にお

いても『女』で三等賞を受賞するなど、新進の画家としての地位を確かなものとしていました。一方、17歳で発症した肺結核は、一進一退の状況で、無理をすると発熱や咯血がありました。

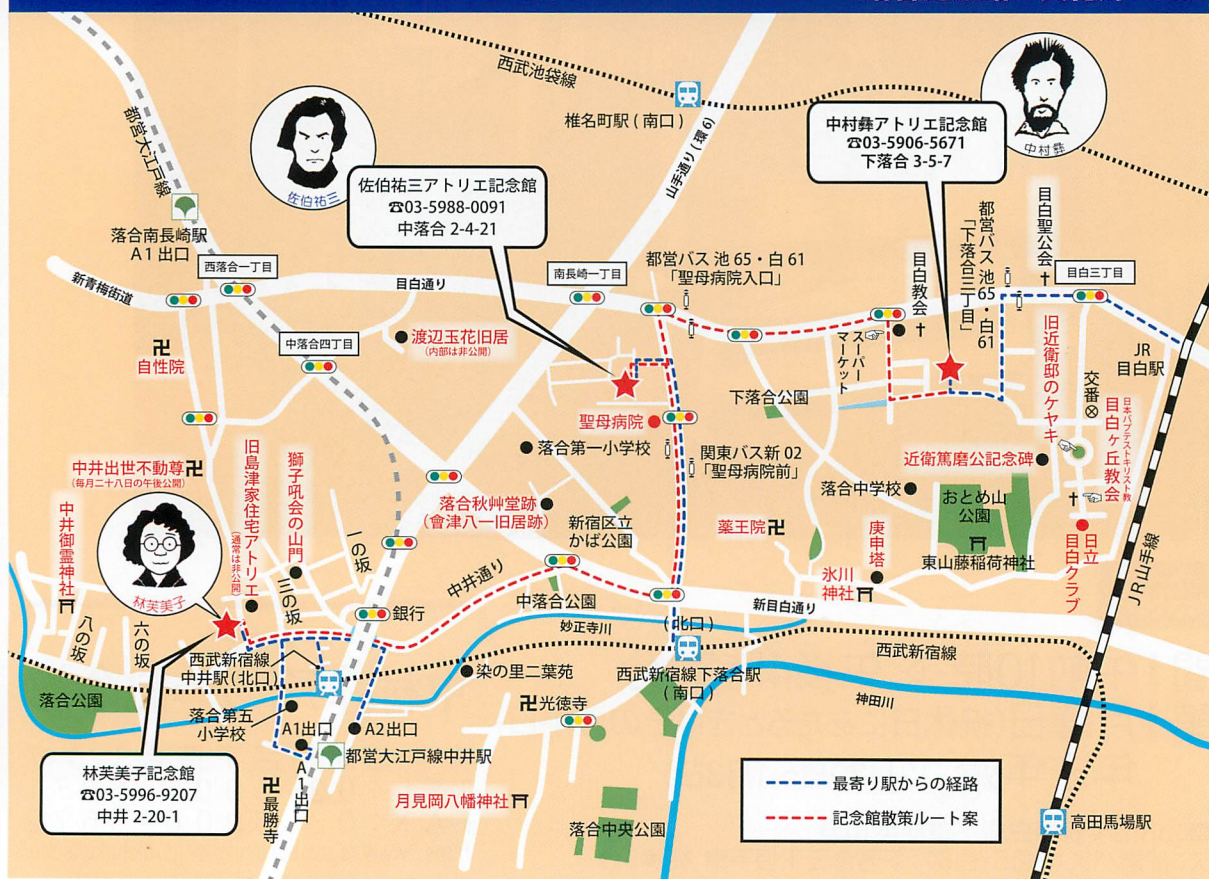
明治44年（1911）新宿中村屋の相馬愛蔵・黒光夫妻の厚意で中村屋裏のアトリエに移りますが、絵のモデルとなった相馬家の長女俊子との恋愛を反対され、失意のうちに中村屋を去り、大正5年（1916）8月、下落合にアトリエを新築しました。あまり外出できなかつた彝は、このアトリエをこよなく愛し、悪化する肺結核と闘いながら作品の制作を続けました。しかし、大正13年（1924）12月24日肺結核による咯血のため、37年の短い生涯を閉じました。

下落合のアトリエでの彝は、長時間の制作は難しくなっていました。断続的にカンヴァスに向かい、画友鶴田吾郎と競作した『エロシエンコ氏の像』をはじめ、『カルピスの包み紙のある静物』『頭蓋骨を持てる自画像』『老母の像』などの作品を描きました。



中村彝が大正5年に新築したアトリエを復元整備し、平成25年（2013）3月17日に「新宿区立中村彝アトリエ記念館」として開館しました。アトリエ内部や管理棟の展示スペースでは、映像やグラフィックパネルで、彝の作品や生涯について紹介しています。

落合記念館・文化財MAP



The route

目白駅

約0.8km 10分



中村彝アトリエ記念館

約1.0km 13分

下落合駅



佐伯祐三アトリエ記念館

約1.6km 20分



林芙美子記念館

約0.4km 5分

中井駅